

令和6年度小平市立小平第十小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

- 「書くこと」に関する事項の正答率は全国平均よりおよそ7ポイント高く、目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすることができていた。
- 言語文化に関する事項では、全国平均よりおよそ5ポイント低く、特に主語と述語の関係を捉える問いの正答率は6割を下回った。

- 自分の考えが伝わるように書き表したり、伝えたりするために言語文化に関する事項を学ぶことは重要である。そのため、文章を読み取る力を系統的に培い、学んだことを活用する場を設定する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・「価値ある課題設定」を行う。学習のゴールを提示するなど、こどもたちが学びたいような課題を設定し、主体的に文章を読もうとする態度を育む。
- ・「問いと答え」「文章構成」「要約」「要旨」など6年間で系統的に理解を深めていく。
- ・他教科や特別活動、学校行事等と関連付けながら言語事項を活用できる場を増やす。

【算数】

状況の分析

課題

- 「数と計算」「図形」に関する事項の正答率は全国平均、東京都平均をともに上回っていた。
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問いや、折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問いなど、データを活用する事項は全国平均、東京都平均をともに下回った。

- 知識・技能に関する事項は正答率78ポイントであり、引き続き学習理解の定着を図る必要がある。
- 「データの活用」や「変化と関係」に関する学習の充実を図る必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・十小算数スタンダードに沿った問題解決の流れを徹底し、授業の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組ませる。
- ・デジタルドリルやデジタル教科書、教科書の2次元コード等を活用して、個に応じた課題に取り組むことで知識・技能のさらなる定着を図る。
- ・具体物や身近なデータ等を用いて、こどもが主体的に学びたいような課題を設定する。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図った授業をすすめる。

【質問紙】

状況の分析

課題

- 「学校に行くのは楽しい」の質問に「当てはまる」と回答した児童の割合は東京都の割合をおよそ 20 ポイント上回っていた。
- 「国語（算数）の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合はおよそ 90 ポイントと非常に高いのに対し、「国語（算数）の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は 70 ポイント程度であり、およそ 20 ポイントの差があった。

- 「こどもの意見表明の創出、自主性、主体性への導き」や「自分も他の人も大切にする」教育活動を通して、こどもたちにとって居心地のよい学校をつくっていく。
- 「学ぶ楽しさ」を実感させながら「学習意欲」を高め、誰一人取りこぼさない授業を展開する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・各教科の年間指導計画・評価計画に基づき、基礎的基本的な知識・技能の確実な習得と活用を図るとともに、「教えて、考えさせる授業」を大切にし、見通しをもたせるために一時間の流れを板書するなど、指導者の発問・指示・説明を精選した授業を展開する。
- ・短時間でも他学級の授業を見る「拝見勉強」を教員が行う。
- ・教科担任制や交換授業を全学年で実施する。
- ・「かかわりタイム」を引き続き実施する。こども自身が「人」「もの」「こと」との「かかわり」について考え、実践し、振り返ることで「かかわる力」を育む。